

第 11 期

第 2 四半期報告書

(平成 16 年 10 月 1 日から平成 16 年 12 月 31 日まで)



平成 17 年 2 月 4 日

株式会社 旅籠屋

会社名 (定款上の商号)	株式会社 旅籠屋
英文名 (英文商号)	Hatagoya & Company
コード番号	4807
代表者の役職氏名	代表取締役社長 甲斐 真
本店の所在の場所	東京都台東区寿 3 丁目 3 番 4 号
電話番号	03-3847-8858
連絡者	代表取締役社長 甲斐 真

四半期の業績

(1) 損益計算書 (単位: 千円、千円未満は切り捨てて表示しております)

科目	期別	前年度 第2四半期 H15.10.1~ H15.12.31	前年度 第3四半期 H16.1.1~ H16.3.31	前年度 第4四半期 H16.4.1~ H16.6.30	当年度 第1四半期 H16.7.1~ H16.9.30	当年度 第2四半期 H16.10.1~ H16.12.31	当年度 累計 H16.7.1~ H16.12.31	前年度比	前年度 同期累計 H15.7.1~ H15.12.31
営業収益									
売上高		43,880	44,608	45,599	88,860	55,705	144,566	+26.0%	114,705
営業費用									
売上原価		43,052	35,522	45,798	54,637	48,756	103,393	+25.3%	82,501
販売費及び一般管理費		8,878	9,571	9,098	10,258	11,043	21,301	+19.0%	17,894
営業利益または営業損失()		8,049	484	9,297	23,965	4,094	19,870	+38.9%	14,310
営業外収益		511	166	88	136	100	236	90.5%	2,472
営業外費用		1,497	1,989	1,413	1,535	1,453	2,989	2.8%	3,074
経常利益または経常損失()		9,034	2,307	10,621	22,566	5,447	17,118	+24.9%	13,708
特別利益		-	-	-	-	-	-	-	-
特別損失		514	-	4	-	-	-	-	893
税引前四半期(当期)純利益または純損失()		9,548	2,307	10,617	22,566	5,447	17,118	+33.6%	12,814
法人税、住民税及び事業税		531	-	531	265	265	531	-	531
四半期(当期)純利益または純損失()		10,079	2,307	11,148	22,300	5,712	16,587	+35.0%	12,283
前四半期(前期)繰越損失()		129,403	139,482	141,790	152,939	130,639	152,939	+0.8%	151,766
四半期(当期)未処理損失()		139,482	141,790	152,939	130,639	136,351	136,351	2.2%	139,482
期中平均株式数		5,620株	5,620株	5,620株	5,620株	5,620株	5,620株	-	5,620株
1株当たり四半期(当期)純利益または純損失()		1,793円	410円	1,983円	3,968円	1,016円	2,951円	+35.1%	2,185円
潜在株式調整後		-	-	-	3,697円	-	2,751円	+30.6%	2,107円
1株当たり四半期(当期)純利益(注1)									

(注1) 前年度第2四半期から第4四半期および当年度第2四半期は、最終損益が損失となるため記載を省略しております。

(2) 部門別内訳 (単位: 千円、千円未満は切り捨てて表示しております)

部門	期別	前年度 第2四半期 H15.10.1~ H15.12.31	前年度 第3四半期 H16.1.1~ H16.3.31	前年度 第4四半期 H16.4.1~ H16.6.30	当年度 第1四半期 H16.7.1~ H16.9.30	当年度 第2四半期 H16.10.1~ H16.12.31	当年度 累計 H16.7.1~ H16.12.31	前年度比	前年度 同期累計 H15.7.1~ H15.12.31
本社	売上高	1,006	2,286	329	457	2,495	2,953	+101.3%	1,467
	経常損益	8,436	8,195	9,197	10,296	9,038	19,335	-	15,709
鬼怒川店	売上高	8,583	8,321	7,271	15,232	8,142	23,375	+0.4%	23,293
	経常損益	324	1,983	721	5,829	748	6,578	5.4%	6,956
	客室稼働率	53.5%	53.3%	43.0%	66.7%	49.5%	58.1%	3.3p	61.4%
那須店	売上高	5,868	5,997	6,090	11,737	5,990	17,728	+3.6%	17,113
	経常損益	489	1,256	362	5,323	518	5,842	2.9%	6,015
	客室稼働率	58.5%	55.4%	64.0%	84.5%	59.3%	71.9%	+2.1p	69.8%
秋田六郷店	売上高	3,897	3,085	4,724	6,325	3,588	9,913	+1.1%	9,809
	経常損益	998	878	222	1,591	663	927	+117.6%	426
	客室稼働率	51.6%	43.0%	61.2%	66.8%	50.6%	58.7%	+1.6p	57.1%
山中湖店	売上高	8,338	8,138	8,490	14,561	8,213	22,774	1.4%	23,093
	経常損益	808	2,326	1,574	7,298	1,896	9,195	+5.8%	8,691
	客室稼働率	69.8%	64.1%	76.1%	88.8%	64.5%	76.7%	3.9p	80.6%
沼田店	売上高	7,011	7,694	6,180	8,770	6,707	15,478	1.8%	15,764
	経常損益	1,104	2,251	264	2,641	1,157	3,798	12.4%	4,337
	客室稼働率	85.6%	88.3%	76.4%	85.4%	78.3%	81.8%	3.8p	85.6%
水戸大洗店	売上高	6,082	6,188	6,044	10,311	6,099	16,411	+5.8%	15,510
	経常損益	282	933	339	4,424	828	5,252	+29.1%	4,069
	客室稼働率	72.2%	72.3%	73.4%	85.0%	73.0%	79.0%	+2.6p	76.4%
北上店	売上高	3,093	2,894	3,532	6,187	3,881	10,069	+16.4%	8,652
	経常損益	2,023	1,564	1,522	1,287	1,061	226	-	1,077
	客室稼働率	35.3%	35.6%	38.4%	57.6%	48.8%	53.2%	+8.5p	44.7%
仙台亘理店	売上高	-	-	2,936	6,826	4,707	11,533	-	-
	経常損益	21	378	1,523	1,335	371	964	-	-
	客室稼働率	-	-	52.7%	72.5%	62.9%	67.7%	-	-
小淵沢店	売上高	-	-	-	8,449	5,879	14,328	-	-
	経常損益	-	43	418	3,131	538	3,669	-	-
	客室稼働率	-	-	-	77.7%	74.6%	76.0%	-	-
全社合計	売上高	43,880	44,608	45,599	88,860	55,705	144,566	+26.0%	114,705
	経常損益	9,034	2,307	10,621	22,566	5,447	17,118	+24.9%	13,708
	客室稼働率	60.6%	58.5%	60.0%	75.7%	61.7%	68.6%	+0.9p	67.7%

(3) 貸借対照表 (単位：千円、千円未満は切り捨てて表示しております)

科目		期別	前年度	前年度	前年度	当年度	当年度
			第2四半期末 H15.12.31	第3四半期末 H16.3.31	第4四半期末 H16.6.30	第1四半期末 H16.9.30	第2四半期末 H16.12.31
(資産の部)	流動資産						
	現金預金		28,534	19,915	9,164	9,754	34,871
	その他		5,306	4,888	6,273	6,689	6,238
	流動資産合計		33,841	24,803	15,437	16,443	41,110
	固定資産						
	有形固定資産		381,183	388,543	382,841	383,890	378,551
	無形固定資産		2,166	1,997	1,828	1,681	1,534
投資その他の資産		17,162	18,935	19,017	18,900	18,783	
固定資産合計		400,511	409,476	403,687	404,472	398,869	
資産合計		434,352	434,280	419,125	420,916	439,980	
(負債の部)	流動負債		8,929	24,421	67,745	47,307	11,235
	固定負債		264,706	251,450	204,119	204,048	264,896
	負債合計		273,635	275,871	271,865	251,355	276,132
(資本の部)	資本金		281,000	281,000	281,000	281,000	281,000
	資本剰余金						
	資本準備金		19,200	19,200	19,200	19,200	19,200
	利益剰余金						
	四半期(当期)未処理損失()		139,482	141,790	152,939	130,639	136,351
資本合計		160,717	158,409	147,260	169,560	163,848	
負債資本合計		434,352	434,280	419,125	420,916	439,980	
発行済株式総数		5,620株	5,620株	5,620株	5,620株	5,620株	
1株当たり純資産		28,597円	28,186円	26,202円	30,170円	29,154円	

(4) 貸借対照表および損益計算書の作成の基本となる事項

四半期の貸借対照表および損益計算書の作成の基礎としている会計処理の原則および手続は、下記事項を除き、正規の決算において採用している基準と同一のものを適用しております。正規の決算において採用している重要な会計方針等は「会社内容説明書 第5経理の状況 重要な会計方針」をご参照ください。

事業年度の貸借対照表および損益計算書の作成のために採用している会計処理の原則および手続と異なる会計処理の基準は次のとおりです。

固定資産の減価償却の方法	各四半期の減価償却費は年間償却見積額の4分の1相当額を計上しています。
繰延資産の処理方法	各四半期末の繰延資産償却費は、年間償却見積額の4分の1相当額を計上しています。
経過勘定項目	未収収益、未払費用等の経過勘定項目のうち、重要性の低い項目は、資産および負債に計上せず期間費用として処理しています。
賞与の計上基準	6～9月の売上高の5%相当額を12月支給予定の賞与未払費用として計上しています。
税金の計上基準	法人税、住民税および事業税の年間見積り額の4分の1相当額を計上しています。
消費税等の会計処理	仮払消費税等および仮受消費税等は、相殺のうえ、差額を流動資産または流動負債として計上しています。

なお、当該四半期の貸借対照表および損益計算書については、公認会計士の監査を受けておりません。

(5) 重要な会計方針

1. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産

定額法を採用しています。なお、主な耐用年数は以下のとおりです。

建物：17～18年、構築物：15～20年、車両運搬具：4～6年、工具器具備品：3～8年

(2) 無形固定資産

定額法を採用しています。なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法を採用しています。

(3) 長期前払費用

定額法を採用しています。なお、期間内均等償却によっています。

2. リース取引の処理方法

リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっています。

3. 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税抜方式によっています。

第 11 期上半期（平成 16 年 7 月 1 日～平成 16 年 12 月 31 日）の業績の概況

(1) 本社

売上は前年上半期に比べ倍増しましたが、スタッフ増員などにより、経常損失は 3,626 千円増加しました。

(2) 鬼怒川店

利用者の漸減傾向（稼働率 61.4 58.1%）が続いており、前年上半期に比べ、売上高は横ばいだったものの、経常利益は減少（ 5.4%）しました。

(3) 那須店

稼働率（69.8 71.9%）売上高（+3.6%）ともに前年上半期を上回りましたが、費用の増加により、経常利益は減少（ 2.9%）しました。

(4) 秋田六郷店

前年上半期に比べ、稼働率（57.1 58.7%）売上高（+1.1%）ともわずかに増加し、経常利益も倍増しましたが、通期で黒字転換を達成できるかどうかは微妙な状況です。

(5) 山中湖店

稼働率（80.6 76.7%）売上高（ 1.4%）はなお、経常利益は増加（+5.8%）しています。

(6) 沼田店

稼働率（85.6 81.8%）売上高（ 1.8%）経常利益（ 12.4%）ともに前年上半期を下回りました。

(7) 水戸大洗店

稼働率（76.4 79.0%）売上高（+5.8%）経常利益（+29.1%）ともに前年上半期を上回り、好調です。

(8) 北上店

稼働率（44.7 53.2%）売上高（+16.4%）ともに前年上半期を上回り、経常損益も黒字となっていますが、通期で黒字転換を達成できるかどうかは微妙な状況です。

(9) 仙台亘理店

4 月オープンから 8 ヶ月余りですが、稼働率が 67.7%と堅調で、経常損益もプラスになり、通期でも黒字になる見通しです。

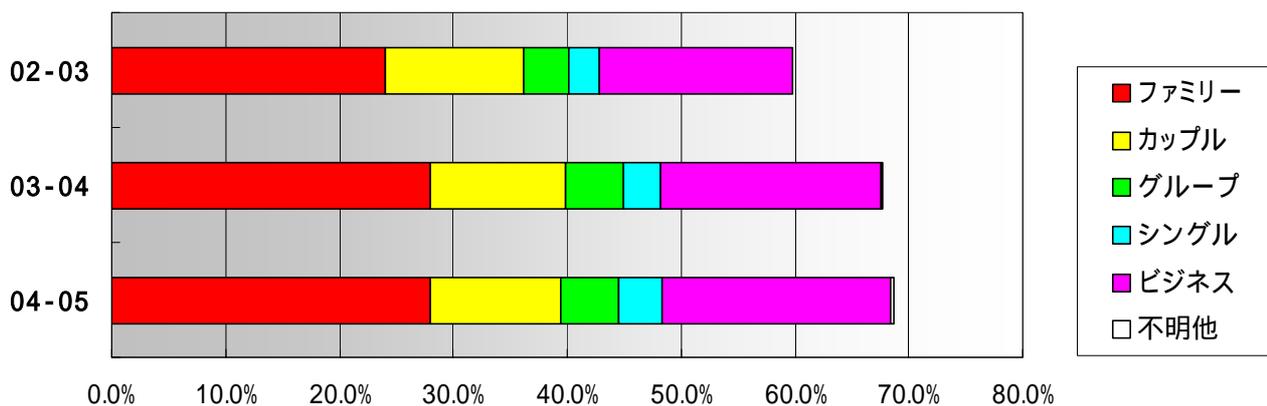
(10) 小淵沢店

7 月オープンから半年足らずですが、ビジネス客が定着し、稼働率も 76.0%と好調で、通期での黒字達成は間違いのない状況です。

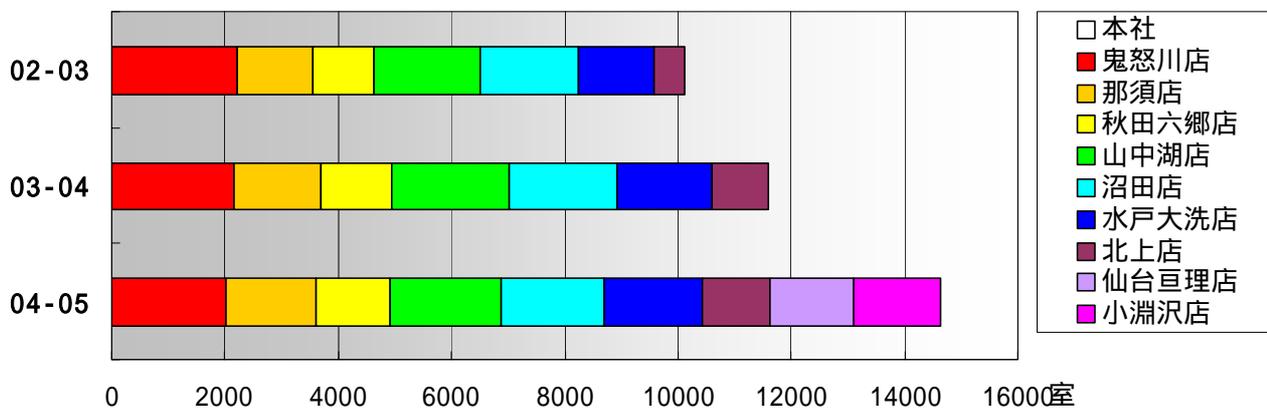
(11) 全社

1 2 月後半の天候不順（スキー場の雪不足と太平洋側の降雪）により多くのキャンセルが発生したこともあり、既存店舗の合計実績はほぼ前年並みにとどまりましたが、新規店舗（仙台亘理店、小淵沢店）が好調だったため、上半期の経常利益は前年より増加（+24.9%）しました。また、すべての店舗で前年上半期の経常損益がプラスになりました。

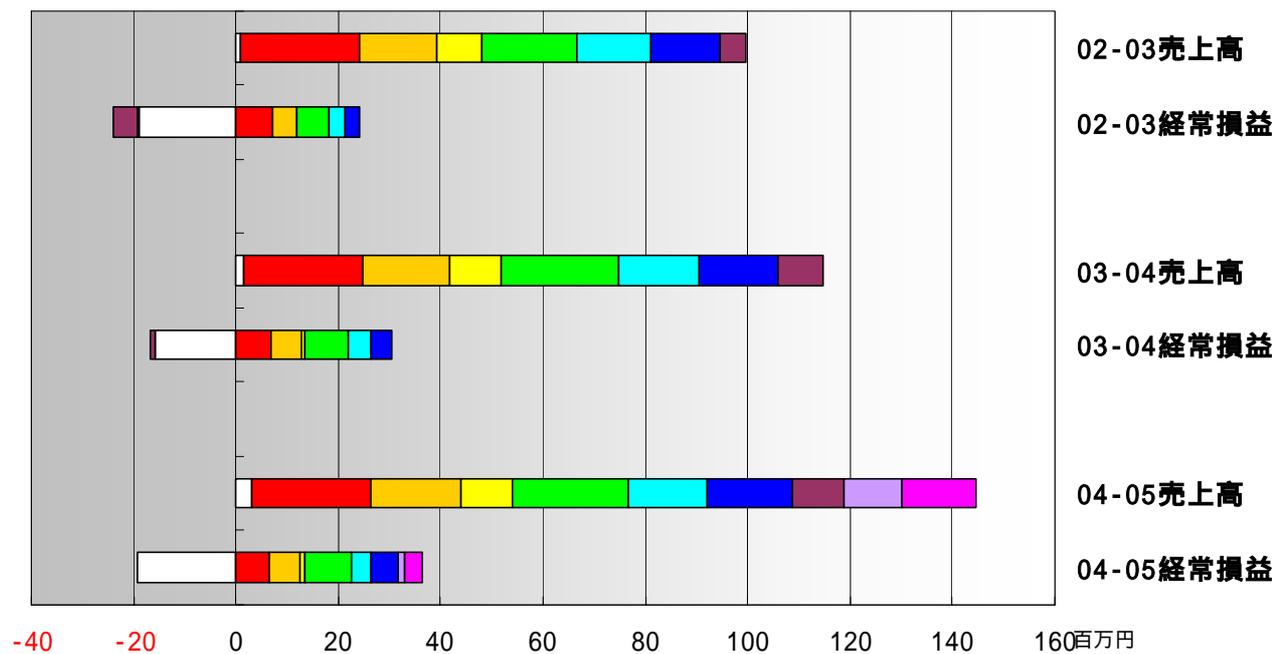
客室稼働率（全店通算、構成内訳）の推移（7/1～12/31）



利用客室数（全店合計、店舗別内訳）の推移（7/1～12/31）



売上高・経常損益（全社合計、部門別内訳）の推移（7/1～12/31）



第 11 期の売上高および利益の予測について

(単位：千円、千円未満は切り捨てて表示しております)

科目	期別 第 10 期 通期実績 H15.7.1～ H16.6.30	第 11 期				
		第 1 四半期 実績 H16.7.1-9.30	第 2 四半期 実績 H16.10.1-12.31	第 3 四半期 予想 H17.1.1-3.31	第 4 四半期 予想 H17.4.1-6.30	通期予想 H16.7.1～ H17.6.30
売上高	204,913	88,860	55,705	49,000	55,435	249,000
経常損益	778	22,566	5,447	5,000	881	13,000
当期純損益	1,172	22,300	5,712	5,500	1,088	10,000

売上高 (+26.0%) 経常利益 (+24.9%) とともに前年上半期を大きく上回っていますが、本社および新規店舗の固定費負担が予想を上回り、第 2 四半期の経常損益は前期末予想を 6,881 千円下回りました。この結果、通期の予想を上記のとおり下方修正します。下半期は可能な限り経費の節減を図り、初の黒字転換を確実に達成できるよう最善を尽くす計画です。

資金および借入金の状況

(1) 現金および預金の増減 (単位：千円、千円未満は切り捨てて表示しております)

科目	期別	第 10 期 第 3 四半期 H16.1.1～3.31	第 10 期 第 4 四半期 H16.4.1～6.30	第 11 期 第 1 四半期 H16.7.1～9.30	第 11 期 第 2 四半期 H16.10.1～12.31
現金および預金の増減額		8,619	10,751	+590	+25,117
現金および預金の四半期首残高		28,534	19,915	9,164	9,754
現金および預金の四半期末残高		19,915	9,164	9,754	34,871

(2) 短期借入金の増減 (単位：千円、千円未満は切り捨てて表示しております)

科目	期別	第 10 期 第 3 四半期 H16.1.1～3.31	第 10 期 第 4 四半期 H16.4.1～6.30	第 11 期 第 1 四半期 H16.7.1～9.30	第 11 期 第 2 四半期 H16.10.1～12.31
短期借入金の増減額		+20,000	-	20,000	-
短期借入金の四半期首残高		-	20,000	20,000	-
短期借入金の四半期末残高		20,000	20,000	-	-

(3) 長期借入金の増減 (単位：千円、千円未満は切り捨てて表示) 1 年以内返済予定額を含みます。

科目	期別	第 10 期 第 3 四半期 H16.1.1～3.31	第 10 期 第 4 四半期 H16.4.1～6.30	第 11 期 第 1 四半期 H16.7.1～9.30	第 11 期 第 2 四半期 H16.10.1～12.31
長期借入金の増減額		12,444	6,698	3,223	+24,991
長期借入金の四半期首残高		261,349	248,905	242,207	238,984
長期借入金の四半期末残高		248,905	242,207	238,984	263,975

借入金の増加は、三井住友銀行 (22,000 千円、10 月融資実行) 東京シティ信用金庫 (協会保証による制度融資 5,000 千円、11 月融資実行) 朝日信用金庫 (10,000 千円、12 月融資実行) からの借入れと約定返済の差額によるものです。いずれも、金融機関から好条件の申し出を受け、夏季賞与の支給など資金状況がタイトになる 6～7 月に備えて運転資金を確保する目的で行ったものです。

今後の事業展開と出店計画について

「前橋南店」の出店決定

昨年12月下旬、10号店となる「前橋南店」の出店契約がまとまり、すでに建築工事が進行中です。5月末には竣工、オープンは7月1日の予定です。なお、出店形態は初の「運営受託方式」によるもので、土地オーナーに建物を建築いただき、当社がホテル運営のすべてを受託して行います。

アメリカ研修を開始

10年前、「ファミリーロッジ旅籠屋」は日本で初めてのロードサイドホテルとして誕生しましたが、この夏には10店舗となりホテルチェーンとして軌道に乗りつつあります。今後の店舗展開に向け、事業のコンセプトやポリシーを再確認し、社内のモチベーションを高めるため、念願のアメリカ研修を開始しました。昨年12年には本社スタッフが、約1週間MOTELに泊まりながらアメリカ西海岸をまわりました。引き続き、損益の状況を見ながら各店舗の支配人を派遣する計画です。

今後の出店計画

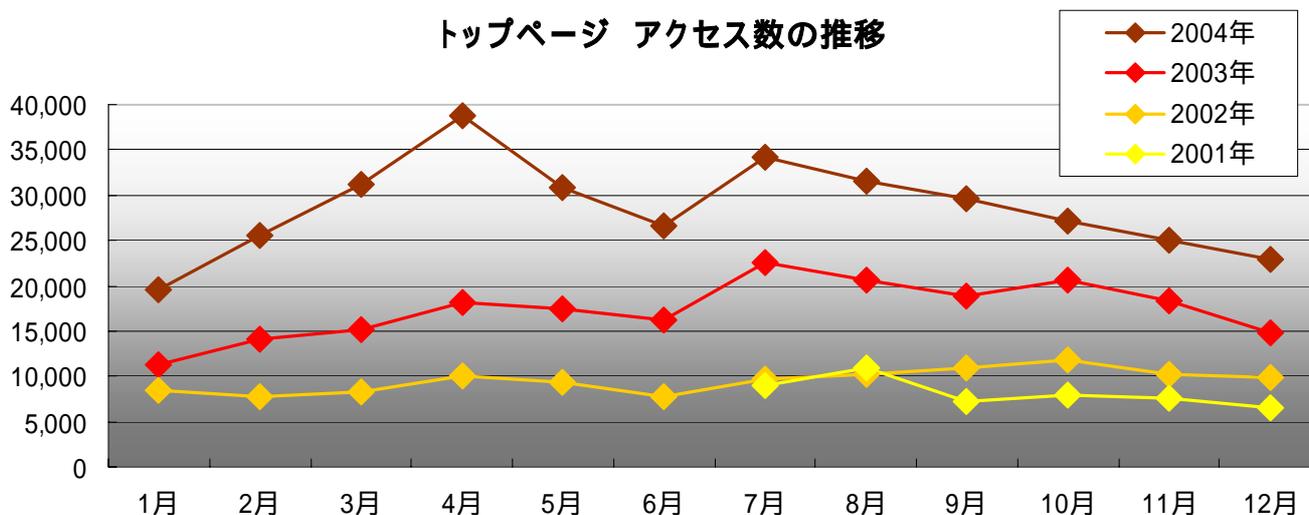
現在、静岡県・千葉県・茨城県・岐阜県などで交渉が進んでおります。

また、昨秋、ある投資会社より東京湾岸エリアへの出店について新規の不動産投資を行う旨の申し出があり、東京ディズニーランド周辺の用地を物色しているところです。用途地域など宿泊施設の建築が認められるエリアが限られており難航しておりますが、早い時期に計画を具体化し、今年中のオープンを実現したいと考えています。

マイカー旅行をサポートするWEBサイト「ファミドラ」を開設

「旅籠屋」のホームページは、下のグラフのとおり順調にアクセス数を伸ばしていますが、これとは別にマイカー旅行、お仕着せでない自由な旅、点ではなく面や時間を楽しむ旅、などをキーワードにした総合サイト「ファミドラ」を2月中旬に開設する予定です。間接的に「旅籠屋」の知名度アップと潜在需要の掘り起こしにつながることを目指しています。開設後、少しずつコンテンツを充実させ、旅のポータルサイトとして広く認知されるよう育てていく計画です。URLは、<http://www.famidola.net/>です。

トップページ アクセス数の推移



以上